

2019 キューバ友好フォーラム

9月7日(土)

13:30~16:30 開場 13:00

変貌する ラテンアメリカ

会場 日本記者クラブ大会議室

TEL 03 - 3503 - 2721

東京都千代田区内幸町2-2-1

日本プレスセンター9階

東京メトロ千代田線・日比谷線「霞ヶ関駅」C

出口、丸ノ内線「霞ヶ関駅」B2出口、都営三

田線「内幸町駅」A7出口、JR「新橋駅」日

比谷口(SL広場側出口)

参加費 1000円(会員500円)

事前申し込みは必要ありません



所 康弘さん



舩方周一郎さん

講演1 ラテンアメリカはいま

グローバル資本主義の視点からみる

所 康弘さん 明治大学准教授

専門は国際貿易論、ラテンアメリカ経済。博士(商学)。メキシコ国立自治大学経済研究所客員研究員(2003~05年)を経て、現在、明治大学准教授。著書『北米地域統合と途上国経済』西田書店。『米州の貿易・開発と地域統合—新自由主義とポスト新自由主義を巡る相克』法律文化社/3000円+税(2018年度日本貿易学会賞学術奨励賞、2017年度明治大学連合駿台学生会学術賞)ほか。

ラテンアメリカ地域全体を見わたすと、2000年代初頭に起きた「左派」あるいは「中道左派」政権の台頭—いわゆるピンク・タイド(pink tide)—は、2010年代に入って退潮を余儀なくされている。そのような中、メキシコでは「国家再生運動」の党首ロペス・オブラドールが大統領選で勝利し、一般的な見方では「左派」政権が誕生したといわれている。

他方、「21世紀の社会主義」を標榜してきたベネズエラの現況は、今の時代状況における社会変革の難しさや重大な問題をわたしたちに提起していると思われる。本講演では、メキシコやベネズエラをトピックにしなが、ラテンアメリカ地域におけるピンク・タイドの潮流の歴史的背景、また、その意義や限界を考えたい。

講演2 ラテンアメリカにおける民主主義の後退?

ブラジル・ボルソナロー政権の成立とイリベラルな反動を中心に

舩方周一郎さん 神田外語大学専任講師

専門は、国際関係論、ラテンアメリカ政治。博士(国際関係論)。サンパウロ大学国際関係研究所客員研究員(2012~2013年)を経て、現在、神田外語大学専任講師。最近の著作『ラテンアメリカの大統領制下における大連立—ブラジルの事例分析を通じて—』(新川匠郎との共著)『アジア経済』2019年、「気候変動パリ協定とラテンアメリカ諸国の対外政策決定」『イベロアメリカ研究』2019年ほか。

世界の民主主義を計るV-Dem(多様な民主主義)のデータによれば、近年のラテンアメリカは、北米・東中欧などとともに「『民主主義の質の低下ないし後退』の第三の波」から重大な影響を受ける地域とされる。その中でも、なぜラテンアメリカの一部では、いま自由権の侵害や社会の分断を助長するイリベラルな反動がみられるのか。この疑問に答えるために、本講演ではメディア報道を中心に「極右ポピュリスト」と評されたボルソナロー大統領の就任前後のブラジル政治経済の盛衰と現在の課題を明らかにする。

報告1 2019年メーデー国際ブリガダに参加して 山田太枝さん キューバ友好円卓会議会員

報告2 ピースボート乗船顛末記(2019年4月20日~8月1日) 安田 清さん キューバ友好円卓会議会員